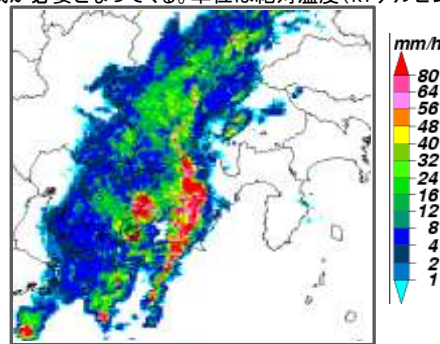
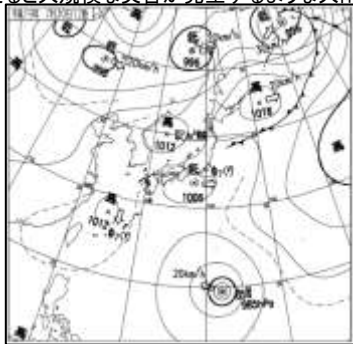


# 2007年 7月30日 不安定(上空に寒気、高気圧の縁辺)

## 1. 気象経過

日本付近の上空に寒気があるところに、高気圧の縁辺から暖かく湿った風が入り、大気の状態が不安定となる状態が25日から続いていた。30日9時には、浜松(防衛省)高度5700m付近の気温-7.7度(暖候期としては低い)、高度1500m付近の気温15.8度、相当温位\*341Kを観測しており、大気の状態は非常に不安定となっていた。30日未明には気圧の谷の接近に伴い、西日本で下層風向が大きく変わるライン(シア)近傍において積乱雲が大規模に発生、発達し、東進していた。この積乱雲が、西部にかかり始めた7時頃から急激に発達した。南北に線状分布となり、10時過ぎにかけ県内を通過していった。これにより西部の4カ所のアメダス観測点で1時間に70mm前後の非常に激しい雨を観測した。**島田市付近では、解析雨量(1km格子)で1時間に約110mmを観測し、記録的短時間大雨情報を発表した。**

\*相当温位: ある高さの空気塊のエネルギーを同じ条件下(1000hPa気圧面)で比較するため換算したものと。暖候期の高度1500m付近の相当温位の目安としては、330Kを越えると短時間強雨の可能性が高まり、340Kを越えると大規模な災害が発生するような大雨に警戒が必要となってくる。単位は絶対温度(K:ケルビン)



2007年7月30日12時地上天気図

2007年7月30日8時10分レーダー

## 2. 大雨の原因、特徴

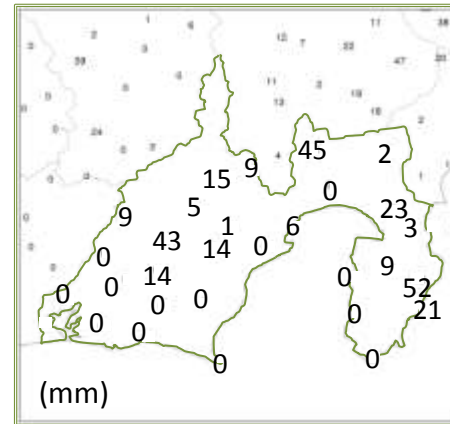
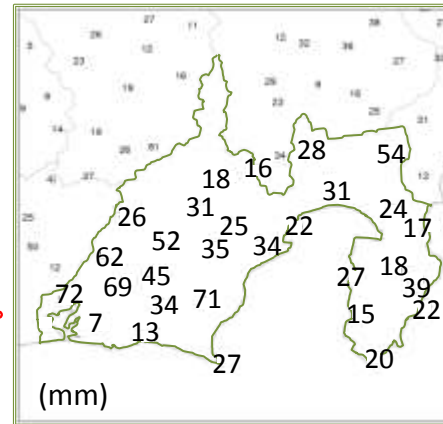
寒冷前線の構造をした線状分布の強雨域が発達しながら東進していく事例は珍しい。南西-北東方向にのびるラインであれば、西部には発達した積乱雲が一時的に入ることもあるが、中部山岳で前線構造が不明瞭となるため、中部以東は弱まりながら雨雲が通過していくことが多い。今回の様に南北方向にのびる線状分布の場合、西側から寒気が県内に入りやすく、熊野灘から遠州灘沿岸域に入る暖気の影響で、中部付近まで発達しながら通過していく場合もある。本事例では、台風や高気圧の縁辺から流れる湿った風が強かったことも影響した。

## 3. 被害概要

	床上 浸水 (棟)	床下 浸水 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	一部 損壊 (棟)	死者 不明 (人)	重傷 (人)	軽傷 (人)	運搬 困難 (戸)	道路 閉鎖 (箇所)	橋り 壊れ (箇所)	河川 (決壊 箇所)	砂防 (決壊 箇所)	鉄道 不通 (箇所)
全県	0	52	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0
中部	0	7	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
西部	0	20	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
東部	0	25	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
伊豆	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-

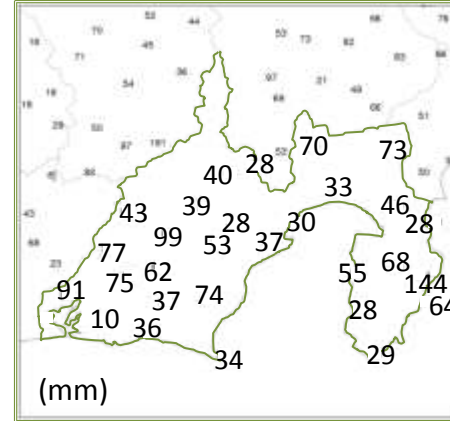
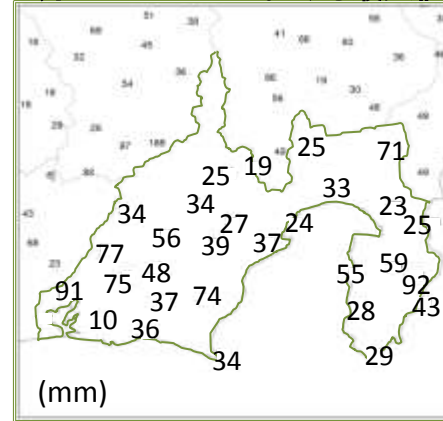
被害数は、静岡県 平成19年における災害の状況による

## 4. アメダス雨量分布図



アメダス1時間雨量(正10分毎)  
7月29日~30日における最大値

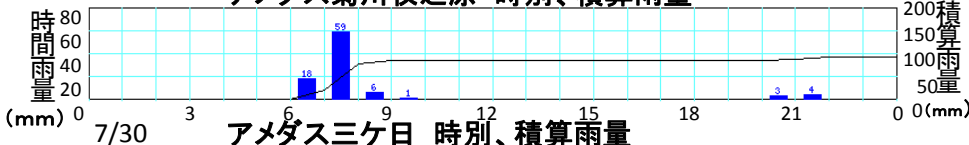
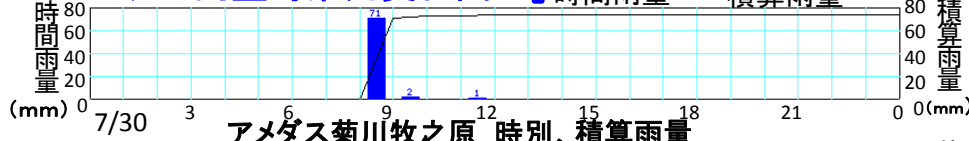
アメダス日雨量  
7月29日



アメダス日雨量  
7月30日

アメダス2日間雨量  
7月29日~30日

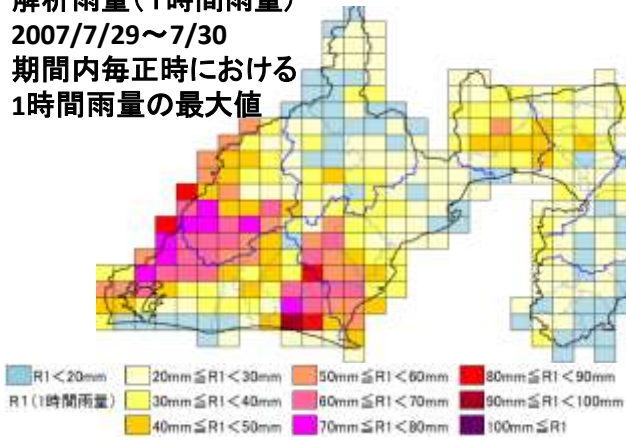
## 5. アメダス雨量時系列変化図



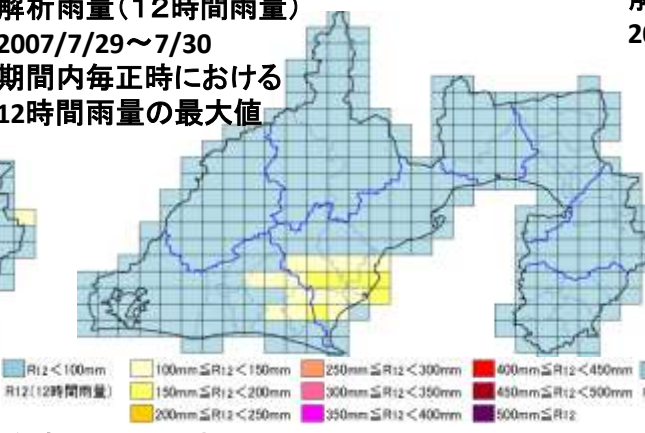
■ 時間雨量 — 積算雨量

# 6. 解析雨量分布図

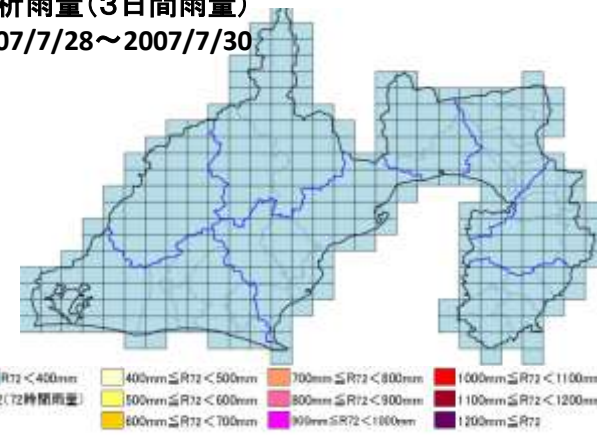
解析雨量(1時間雨量)  
2007/7/29~7/30  
期間内毎正時における  
1時間雨量の最大値



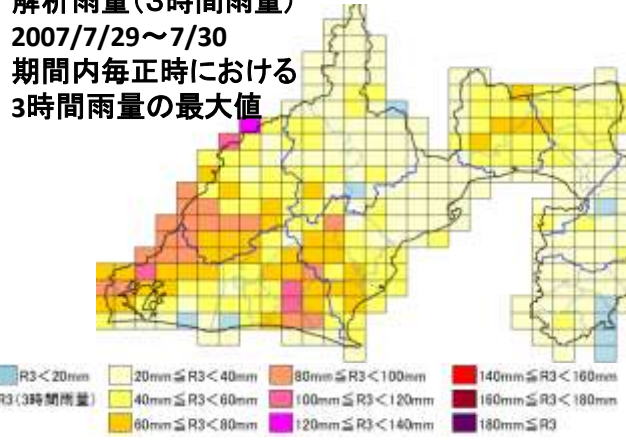
解析雨量(12時間雨量)  
2007/7/29~7/30  
期間内毎正時における  
12時間雨量の最大値



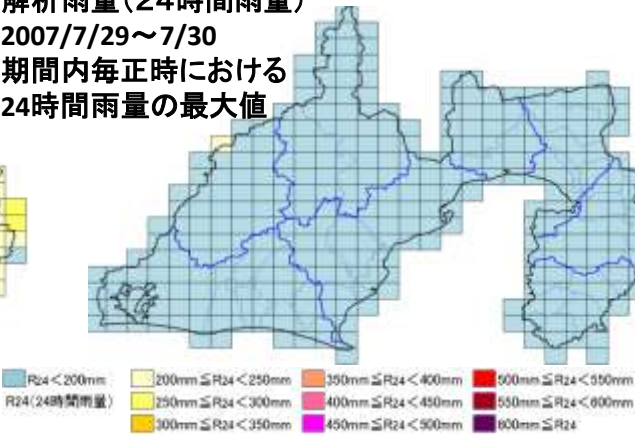
解析雨量(3日間雨量)  
2007/7/28~2007/7/30



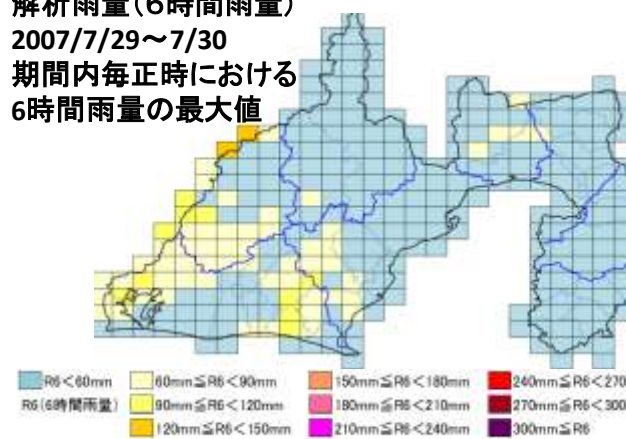
解析雨量(3時間雨量)  
2007/7/29~7/30  
期間内毎正時における  
3時間雨量の最大値



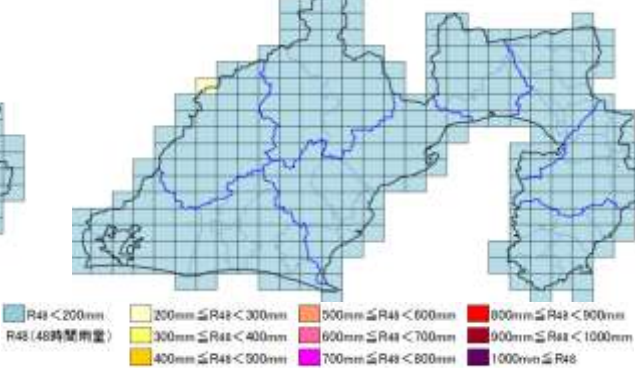
解析雨量(24時間雨量)  
2007/7/29~7/30  
期間内毎正時における  
24時間雨量の最大値



解析雨量(6時間雨量)  
2007/7/29~7/30  
期間内毎正時における  
6時間雨量の最大値



解析雨量(2日間雨量)  
2007/7/29~7/30



# 7. 床上、床下浸水被害分布図 (市町毎)



## 解析雨量と浸水害分布図からわかる大雨の特徴

発達した積乱雲の動きは早いものの、南北の線状構造が数本あったため、頭上を通過するのに1時間程度かかった。このため猛烈な雨となったが、これらが通過した後、間もなく西風に変わり降水は終了した。解析雨量分布より、愛知県境付近及び牧ノ原台地周辺で積乱雲が発達した事がわかる。